

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

地域共生社会に向けたアクティビティによる地域コミュニティづくりに関する調査研究事業

レポート デジエスト版

令和2(2020)年3月

一般財団法人 日本総合研究所



I. 事業概要 ① 背景と事業目的

背景

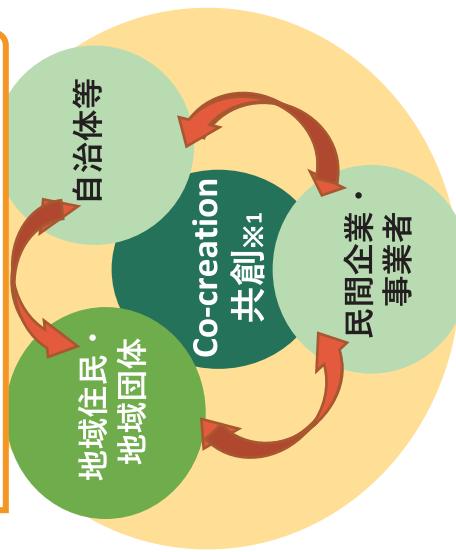
- 2040年に向けては、全国的に生産年齢人口の減少と、高齢者人口の増加傾向が見られるが、中でも関東信越厚生局管内の大都市圏を中心とする地方自治体における人口構成の変化は、量・割合ともに著しい。
- 基盤となる地域社会に目を向けると、都市部の地域コミュニティを中心に、地域の人間関係・社会関係性の希薄化が進んでいる現状がある。

事業目的

- 今後、アクティブシニアを含む多様な住民の力を、持続可能な地域コミュニティづくりにより積極的に生かしていくことを目指して、各地での取組事例等をもとに、その具体的の方策を提示することを目的として実施する。
- 具体的には、以下2点の提示による取組の広がりを目指すものである。
 - ①アクティブシニア像の類型化、「協働」の構図、あるいはそれらをつなぐ社会関係性のタイプ分け
 - ②事例調査や地域における協働の実践を通じたアクティブシニアによる地域コミュニティづくりのプロセスや方策

※関東信越厚生局管内、特に1都3県を対象エリアとして実施

2040年を見据えて、
“目指す地域”の姿実現に向けて



住民・事業者・自治体等の三者共創
による地域コミュニティづくり

※1「コ・クリエーション（Co-Creation）」とは、多様な立場の人たち、ステークホルダーと対話しながら新しい価値を生み出していく考え方のこと（＝共創）

I.事業概要 ②本事業におけるキーワードの定義・考え方

1.地域共生社会

- 一人ひとり、多様な人生観や生き方が尊重され、誰もがその人らしく生きられて、地域や社会の中で役割を発揮できる、「いない（ない）もの」とされない社会。
- 「ＳＤＧｓ」の観点では、「誰一人として取り残さない」社会。

※「地域共生社会の理念とは、制度・分野の枠や、「支える側」「支えられる側」にいう従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創るという考え方」（「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」（最終とりまとめ、2019(令和元)年12月26日））。

2.アクティビティニア

- 高齢者を含むが、年齢（は問わない）。心身の健康状態等も限定しない。
- “シニア”的再定義…「何らかの強みを持つている人。
- 時には、その人の「まだ頑在化していない意欲」を引き出すことも含める。

3.地域コミュニティ

- 一般に「地域コミュニティ」という場合は、地域社会で暮らす住民をその構成要素とするコミュニティをさし、行政区域や地域を越えるネットワークを基盤としたコミュニティ（例えば、地域を越えて連携した非営利組織などの集団、インターネット上で連絡を取り合う集団など）と区別することが多い。
- 本事業では、「アカティブシニア」の活動範囲の多様性から、上記でいう双方の意味を包含する用語として、「地域コミュニティ」を用いることとする。

※参考までに、個々人の人生や、生きることの全体像における相互関係性を示すＩＣＦ（International Classification of Functioning, Disability and Health、国際生活機能分類）では、「地域コミュニティ」は、生活機能の背景因子としての「環境因子」として位置づけられることから、上記でいう双方を選択できることが、安心と豊かさにつながるのでないかと考える。

I. 事業概要 ③実施内容、事業推進体制

実施内容

各調査・地域協働実践の位置づけは以下のとおり。

(1) アクティブラジニア像の仮説検討

(1)について
本事業におけるアクティブラジニア像を言語化するために、文献調査等による検討・類型化を試みる。

事例調査
(文献、委員からの紹介等)

地域資源や地域構造等の把握
(文獻、委員からの紹介等)

類型化

(2)事例ヒアリング調査

ヒアリング調査先選定・調査実施
(管内中心に10事例程度)

(3) 地域協働実践

神奈川県南足柄市
埼玉県幸手市・杉戸町

例)

- ・地域ヒアリング
- ・実施方針と内容の検討
- ・調査、ワークショップ等の実施
- ・評価、振り返り
- ・報告会等

(2)について
アクティブラジニアによる地域コミュニティづくりをすでに実践している地域・自治体に対し、取組の内容・背景・課題や展望を把握し、他地域への展開可能なポイントを抽出。地域特性、人口構成、活動の分野等により類型化したうえで、取組の展開イメージや工夫を整理する。

(3)について
アクティブラジニアによる地域コミュニティづくりに向けて促進のための検討を開始している、あるいは取組が始まっている地域に対し、その実践を伴走支援あるいはプロセスの可視化をすることで、他地域での同様の取組を促進する。

事業推進の体制

委員構成 ※敬称略、五十音順

- 北本 佳子 昭和女子大学人間社会学部教授
○時田 佳代子 社会福祉法人小田原福祉会 理事長
○西垣 克 前宮城大学理事長 株式会社医療経営研究所 所長
○早川 仁 流山市 健康福祉部長
○丸山 法子 一般社団法人リエゾン地域福祉研究所 代表理事

※必要に応じて、地域協働実践のフィールド地域において地域版企画会議を実施。

II. アクティビティニア像の仮説検討 一全体像・前提としたこと一

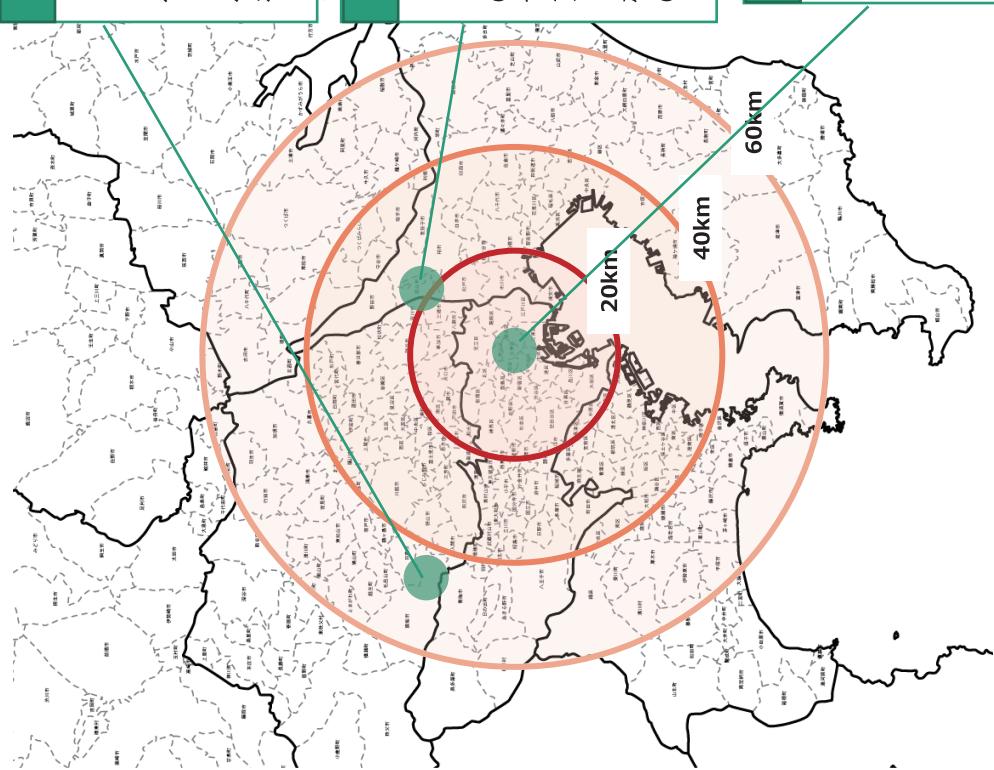
- 社会活動への参加意欲と参加経験(実績)に基づいて考えると、A～Cのタイプが見えてくる。さらに、A～Cとは別に、これまで「支援される側」と認識されたDタイプも存在する。
※なお、各タイプはそれぞれ独立した類型ではなく、要素が重なりあう部分もあるが、一人の人が時間の経過の中で複数のタイプ間を移動していくことも想定している。
- 従来は、ややもすれば下記のA・Bタイプを想定して、例えば「定年後の地域デビュー」「生涯学習」等のさまざまな施策が進められてきた。
- 「人生100年時代」といわれ、「地域共生社会」を目指す今、地域や社会の中ではむしろ、C・Dタイプの方の役割や出番を創出していくことが求められている。
- そのためには、**それぞれのタイプの“アクティビティニア”が活躍できるような幅広い環境整備が求められており、それらの環境づくりを住民、事業者、行政が協働・共創して進めていく必要がある。**

	A	B	C	D
タイプ	もともと社会参加の意欲が高く、実際には自ら活動するタイプ（自他ともに認める“アクトイティニア”）	参加意欲はあるが、実際には活動できていらないタイプ（どこに行けばいいか分からない、既にある活動へ入りづらい…）	社会参加は特に意識していない、あるいは、自分が役に立つことを意識していないタイプ	どちらかといえば社会が、場合によっては当事者自身も「支援される側」と認識しているタイプ
社会参加への意欲	ある（高い）	ある	ない・少ない	どちらともいえない
社会参加実績	ある	ない・少ない	顕在化していない	顕在化していない
例えばこんな人	・自治会活動等に熱心（人の役に立ちたい） ・職業経験で身に着けたスキルを定年後も生かしたい	・職業経験で身に着けたスキルを定年後も生かしたい	・元気なうちは働きたい ・自分にスキルがあるという自覚がない（例えば、家事一食事・掃除・洗濯・裁縫、庭仕事等）	・障害のある人 ・若年性認知症、認知症高齢者 ・引きこもり等の若者～中高年 ・定年後、趣味を楽しんで過ごしたいと考えている

ここでは、「社会参加」を「就労、ボランティア活動、趣味・学習・保健活動等、他者の相互関係を伴う活動への参加」を幅広く含めた言葉として用いることとする

III.取組事例紹介

①行政が施策として位置付けている取組　ーヒアリング調査からー



50km圏内 埼玉県飯能市 地域での支え合い活動創出の取組

▶取組の概要

- ・地域の中での「潜在的だが、活動の意向を持った住民」を見つけるために、記名式アンケートを企画・実施。地区内に約500名も参加意向を持つ人がいることを確認した。
- ・生活支援等の支え合い活動創出にあたり、既に連携協定を結んでいた埼玉医科大学へ協力をあおぎ、共同調査とした。行政だけでは、実施が難しい部分について、連携協定を締結している大学の知見を活用した。

30km圏内 千葉県流山市 高齢者ふれあいの家支援事業

▶取組の概要

- ・市内でも地域特性が異なる地域において、高齢者等の孤立防止を目的に、高齢者が自由に集まり、高齢者相互の交流や高齢者と子ども等との世代間の交流の場を、住民の発意に応じて支援する仕組み。
- ・多世代交流を含める等、地域の事情に応じて使いやすい事業の枠組みどし、空き家の紹介等場所を探しにも協力。補助金・助成金の交付（立ち上げ支援）等、行政の基盤整備としての役割が明確。

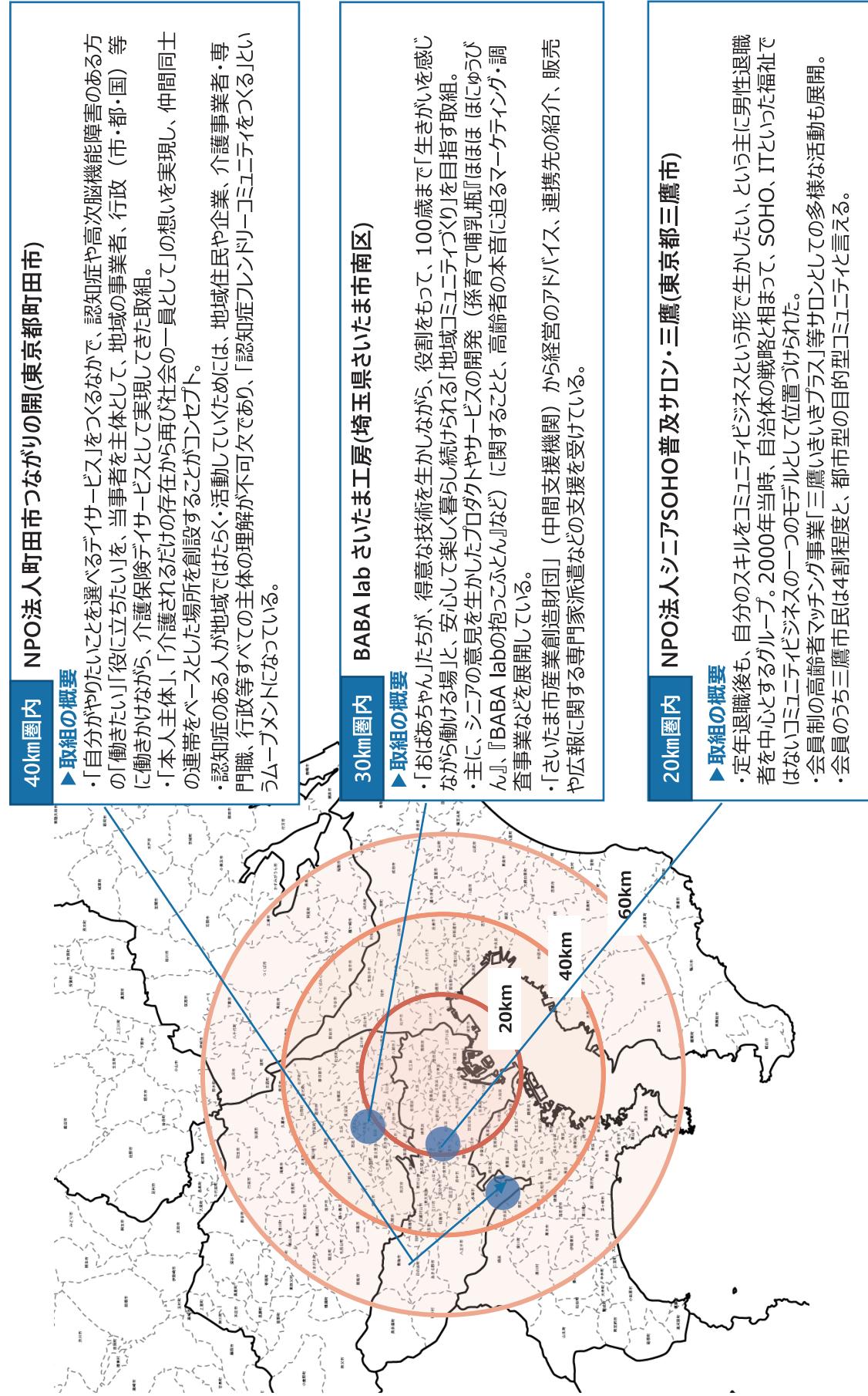
10km圏内 東京都千代田区 ちよだ生涯学習力レッジ

▶取組の概要

- ・「学びを紡ぐ新たな仕組み」として、地域内にさまざまな各種・各所での学びの機会を紡ぎ、千代田区における生涯学習の中核的な役割を担う場所として設置が計画された生涯学習の場。
- ・昼夜間人口比率が圧倒的に高い地域で、千代田区に関する学びを通じて、職域区民の区への愛着と活動意欲を高めてもらうねらいがある。
- ・参加者からみれば、若年時からの地域でのボランティア活動のきっかけを得る好機といえる。

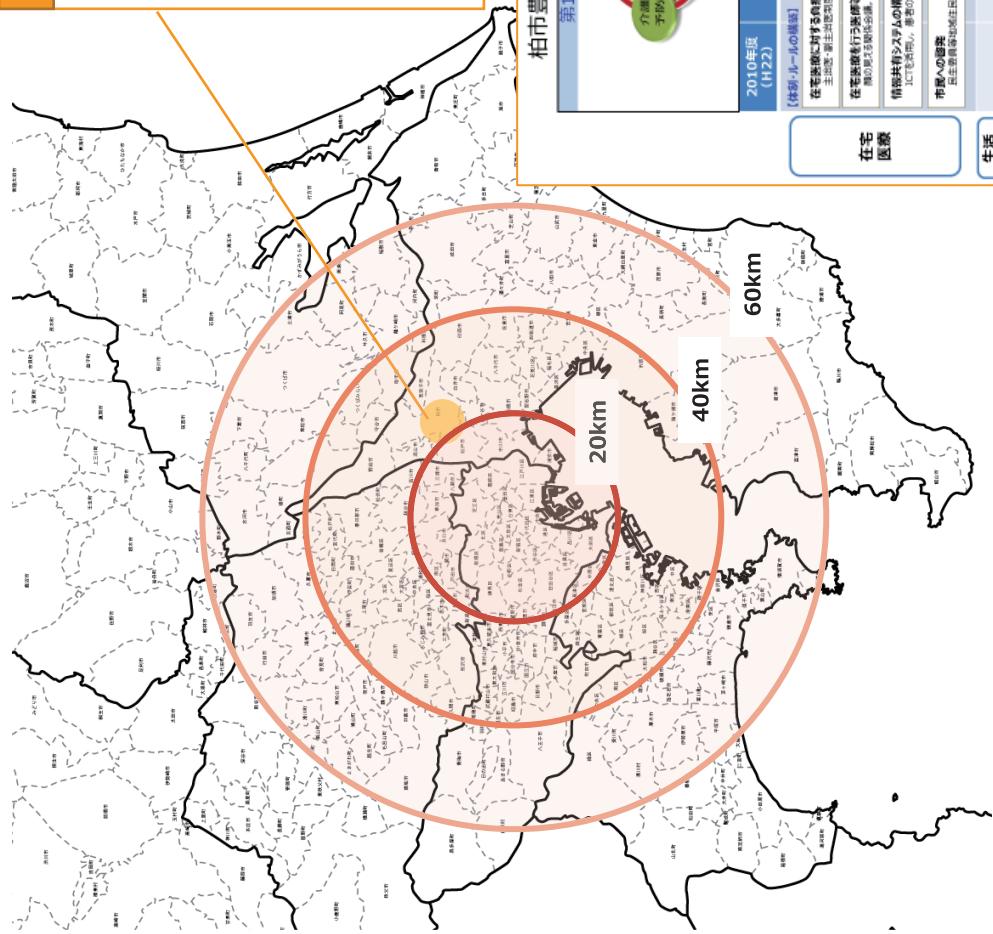
III.取組事例紹介

②民間発意の取組 一ヒアリング調査から



III.取組事例紹介

③産官学民連携による取組 一ヒアリング調査から一

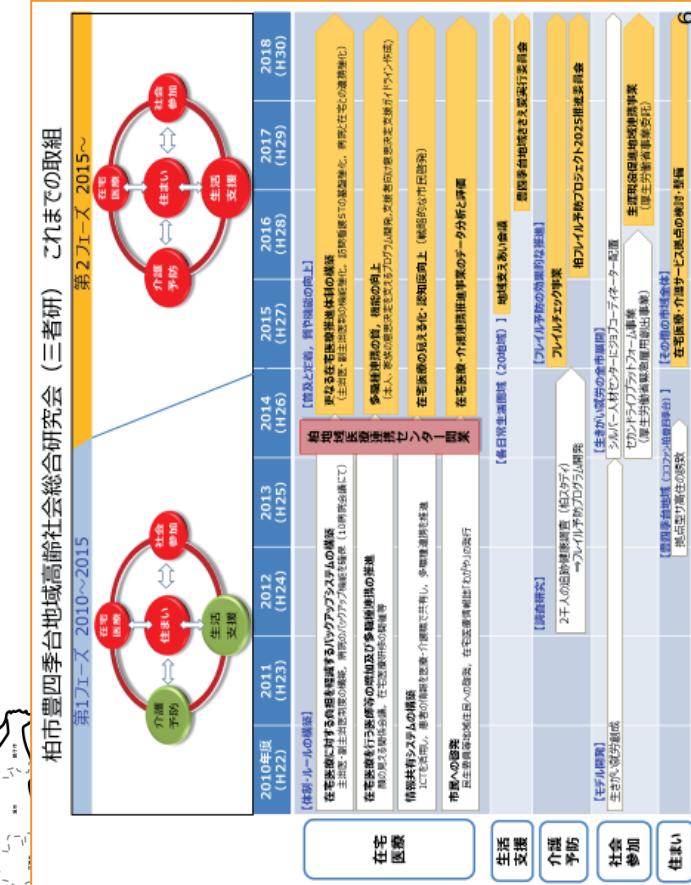


30km圏内 柏市生涯現役促進協議会(千葉県柏市)

▶取組の概要

・高齢者の地域での社会参加に向けた学び直しとはたらく支援の仕組みづくりを、大学、UR、行政による三者協定のもとで取組を推進した。
・具体的には、特に東京に通勤していた高齢リタイア層にとつて抵抗の少ない地元での社会参加のかたちとして、「はたらくことを中心に、地域という場所で、帰属意識や社会的役割が明確に与えられることの重要性に着目し、手法を開発した。

・当初高齢化が進展している団地を対象にした取組でしたが、一定の成果を得るなかで、行政が中心となって、全市を対象とした「セカンドライフプラットフォーム事業」へと展開（厚生労省緊急雇用創出事業を活用）。その成果を受けて、現在、「生涯現役促進地域連携事業」として厚生労働省から採択され実施している。



6 柏市提供資料

III.取組事例紹介 ④都県による環境整備の事例 一ヒアリング調査から一

担当課	都民・県民(個人)への アプローチ施策	市区町村への支援施策
県民生活部 共助社会づくり課 担当い手支援担当 埼玉県	1.アクティブシニア地域デビューパートナーシップ事業 2.アクティブシニアの社会参加支援事業 3.埼玉100年人生を楽しむ推進事業	<p>アクティブシニアの社会参加支援事業への補助</p> <ul style="list-style-type: none"> 「シニアをはじめとする住民が、地域社会を共に支える担い手として活躍すること」を目的としたモデル市町村による事業に対して、補助金を交付(2016(平成28)年度創設)。 補助対象は市町村で、補助額300万円、補助率は10/10、最大3年間。 実績:17市町(2016(平成28)~2018(平成30)年度)。
福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課 在宅支援担当 東京都	1.地域福祉団体の運営基盤強化 2.プレシニア世代の地域貢献活動への参加促進	<p>新たな活動創出に取り組む区市町村等への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉の担い手や新たな活動を創出するため、各地域において中間支援を行なう区市町村、社会福祉協議会、地域包括支援センター等の取組を支援。具体的には、セミナーの実施と個別伴走支援を行うもの。 実績:14地域(2015(平成27)~2018(平成30)年度)。
政策局 未来創生課 コミュニティ活性化グループ 神奈川県		<p>かながわ人生100歳時代ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民一人ひとりが自分自身の人生の設計図を描き、生涯にわたり輝きつづけることができる社会を実現するため、行政、大学、企業、NPO等が連携・協働し、学べる場や機会をつくり、活躍できる場につなげる仕組み。2017(平成29)年6月に立ち上げられた。 本ネットワークは、88団体・有識者3名から構成される(2020(令和2)年3月4日現在)。

IV. 考察と提案

—地域共生社会に向けたアクティビシニニアによる地域コミュニティづくりに向けて—

高齢者等本人の動機・モチベーションを高める関わり・仕掛け例

アクティビシニニアの4タイプ	A もどもと社会参加の意欲が高く、実際に自ら活動するタイプ	B 参加意欲はあるが、実際には活動できていないタイプ	C 社会参加は特に意識していない、あるいは、自分が役に立つことを意識しないタイプ	D どちらかといえば社会が場合によつては当事者自身も「支援される側」と認識しているタイプ
----------------	----------------------------------	-------------------------------	---	---

「健康によい」「楽しい」「安心できる」「ためになる」「仲間に会える」などの前向きな実感が持てること

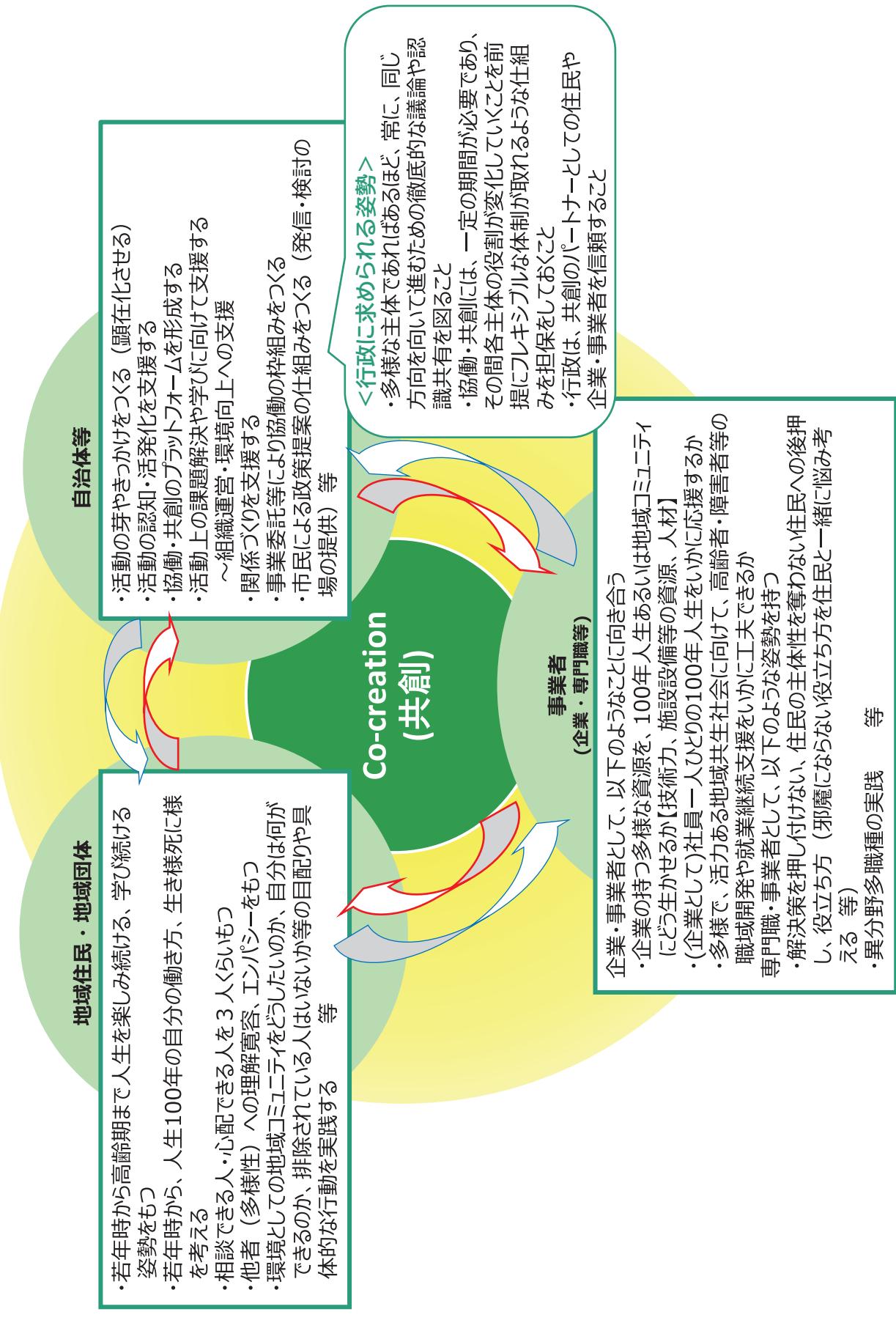
- ・学びや体験の場の提供
- ・イメージの共有やマッチング支援
- ・因つたときの支援の仕組み(安心感の提示)
- ・社会的認証(後押し)
- ・学びから社会活動への行動を促す効果的な機会提供
- ・複数の活動領域や多様な手法の提示(視野を広げる機会等)
- ・役割転換のイメージづくり
(自分の興味関心を追求したい⇒誰かのために役立ちたい) 等

- ・信頼できる他者との関係づくり、居場所づくり
- ・エンパワメント(自己肯定感や自律意識の醸成)、ソーシャルワークの力

「アクティビシニニア」の積極的な参加により、目指す地域コミュニティの姿

- 「役割」や「やりがい」を持つことで、個人の「暮らしの満足感」が高まり、住民の健康の維持・増進が図られている
- 多様な「安心な居場所」と地域コミュニティの多様な網の目づくりに貢献している
- 常住している住民と、例えば現役職域層とのコラボレーションがみられるなど、「住民」の層が厚くなっている
- あらゆる活動が価値観の転換につながっている(例えば家事・育児など従来ややもすれば光が当たつてこなかつた分野が、生活の豊かさや安心にとつて重要な意味を持つと捉えられるようになる、など)
- 行動様式／仕組みの変化・変革(イノベーション)につながる(多様性の尊重と理解・行動様式の変化が促され、一人ひとりのエンパシーが醸成される、など)
- 上記のような事柄が、「文化」として地域や社会に根付いている

IV. 考察と提案 一各主体に期待される姿勢や行動とはー





令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健増進等事業
地域共生社会に向けたアクティビティニアによる地域コミュニティづくりに関する調査研究事業
レポート ダイジェスト版

令和2(2020)年3月
一般財団法人日本総合研究所

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15番8号 アークブランシィ四谷3F
TEL: 03-3351-7575 (代表) FAX: 03-3351-7561